

平成24年2月号

古田土さん「せい病」にかかっていませんか

去年のお客様との決算前検討会のおき、物ヤスカフの安川社長から、「古田土さんせい病にかかっていませんか?」と言われドキッとなりました。一瞬頭の中に浮かんだのは学生時代に彼友が病気(性病)にあって1,000円カンパしたことです。しかし、すぐ安川社長はせい病の意味を説明してくれました。世の中に起こったこと、会社で起きていること等を自分以外の他人のせいにする「せい病」にかかっていませんかということ。確かにその言われれば「せい病」にかかっています。家庭では、妻や子供のせいにして何もしない自分があります。会社では業績が悪いのは景気のせい、社員のせい、得意先・仕入先のせい、震災のせいと数えればきりがありません。社員は赤字で給与・賞与の少ないのは社長のせい、自分の成果があがらないのは上司のせいとせい病が蔓延しています。インフレーション以上に流行っています。阪神の元プロ野球選手に「監督がアホだから野球がでけへん」と言って引退した江本という投手がいました。また社員に責任はありません、全部私が役員が悪いんです。」と言って涙を流した大会社の社長もいました。大会社の社長は責任をとって自分が辞めれば責任をとったことになっています。政治家も同じです。どんな失敗をしても国民を不幸にしても辞めれば責任は追求されません。社員も大きな失敗(ミス)をしても辞表を出して会社を辞めればめったに責任は追求されません。他人のせいにすることもできます。言い訳もできます。しかし中小企業の経営者は、業績が悪いからといって、社長を辞めさせません。辞めれば借入金の個人保証を抜いて下さい、個人の財産の担保をはずして下さいと銀行にお願ひしても絶対に承知してくれません。会社が倒産すれば個人財産を全て失うばかりか、自己破産もしなければなりません。他人のせいにするせい病にはかかれません。しかし、全てを自分のせいにするせい病にかかればよいのではないのでしょうか。社長は、世の中の景気の悪いのも、社員の態度の悪いのも、社員が社長の悪口を言うのも、奥さんが美人でやさしくなるのも、子供のできが悪いのも、全て自分のせいだと考えるせい病にかかっているればよいのです。この病気にはかかりたくてもなかなかかかれませんが、すぐ完治して、悪い方のせい病にすぐかかります。この病気は長く、ほとんど治ることがない病気です。中小企業の経営者は絶対に会社をつぶさないよう経営をしなければなりません。大企業は何年か赤字が続いたり、何千億円という赤字を出しても社員も世間もつぶれるとは思っていません。蓄積があるからです。人材・資本のれんという3つの蓄積があります。中小企業はこの3つの蓄積がないか、あっても少ないのが実状ではないのでしょうか。この3つの蓄積をいかにつくる。優先順位は、1. 資本。2. 人材。3. のれんです。つぶれないことが大事ですから、資本の蓄積が1番です。売上でもなく、利益より、財務体質です。P/LよりB/Lです。自己資本比率が高く、預金をたくさんもっているのは、大不況がよいか、大震災があっても他の会社より生き残れる確率は高くなります。現在いくど利益を出しているも資本の蓄積がないと環境の変化によりつぶれる確率は高くなります。2番は人材の蓄積ですが、採用、教育と時間がかかります。10年位かかるのではないのでしょうか。3番ののれんの蓄積は、10年以上は固いながります。100年、200年と続いている会社はのれんの蓄積があります。

古田土 満